



やなぎっ子

さいたま市立片柳小学校

TEL 048-683-3174

FAX 048-683-8971

<http://katayanagi-e.saitama-city.ed.jp/>

「音！」 ～ エネルギーの集うところ

校長 萩原 哲哉

騒がしいだけのものが多いので、テレビのバラエティ番組はほとんど観ないのですが、某局・某番組の、タレントさんが俳句を作り、それをプロの方が批評するコーナーだけは、好んで観ています。俳句十七音の言葉選びについて、大変わかりやすい説明で、毎回うなずきながら聞いています。ことばの価値や大切さ、一つのことばが抱える世界、受け手が感じる印象、・・・改めてことばの偉大さやその文化の深さを感じ入っています。

「俳句」と聞いて、多くの方が思い浮かべるであろう句が、松尾芭蕉の「古池や 蛙（かわず）飛び込む 水の音」の句。種田山頭火（たねだ さんとうか）という俳人は、この句を推敲し、可能な限り言葉をそぎ落としていきます。まず「古池や」を落とし、「蛙飛び込む水の音」とします。次に「蛙飛び込む」を落とし「水の音」を残す。ここからさらに「水の」を落とします。残ったのは、「音」の一文字だけ。（のちに「！」をつけています。）これではっきりすることは、この句の感動の中心。古池のたたずまいでもなく、蛙の動きでもなく、「音」。しかも実際に響いている音ではなく、水音によって強調された「静けさ」ということになるわけです。

本質ではないものをそぎ落としていった先にあるものは、物事で一番大切なもの。「核」と言ったり「中心」と言ったり、文章では「主題」と言ったりします。では、「学校の価値」を考えたとき、「残るもの = 一番大切なもの」は、何なのでしょう。

「学校の責務」と言った場合、それは、子どもの学力保障であり、命を守ることです。この命題は変わることはありません。でも、「学校の価値」と考えた場合、学習は学校でなくてもできる、命を守ることに、自宅も学校も関係ない・・・と考えると、何か別のものがありそうです。

今回、長い臨時休業を静まり返った校舎で過ごす中で、「学校は、子どもたちのエネルギーが集うところ」と考えるようになりました。子どものいない校舎にあるのは、使い手を待っている机、ロッカー、教科書・教材。子どもの作品掲示が増えることもなく、聞こえてくる声もない状態でした。

分散登校がはじまり、徐々に通常の生活に戻ってくる中でも、このことを改めて実感しました。登校してくる子どもの顔は、楽しそうな顔ばかりではなく、眠そうな顔や、御機嫌斜めの顔も当然見られます。それもすべて「子どものエネルギー」です。それが「学校」という場に集結し、同じ時間を過ごすことで、エネルギー同士が作用しあいます。同じ方向に進めば、競い、励まし合うこととなりますし、違う方向に行こうとするときには、折り合いをつけるためにいろいろ考えます。時に正面衝突したとしても、それも子どもにとっての生きる勉強。それを乗り越えて、次のステージへ進んでいきます。そんな子どもたちが発するエネルギーに触れることで、私たち教職員は、元気をいただけているのだと思います。

御家庭へのお願いばかりの一学期でしたが、その都度、温かな御理解・御協力を頂きましたお陰で、一学期を終了することができます。改めて御礼申し上げます。例年と同じような時間にはならないかも知れない夏休みですが、御家族皆様で御健康に留意され、有意義にお過ごしください。